

かたの



R4. 4.15
形塾小学校
校長室だより

おかげさまで国語部報学校に配布される広報紙より

それでも、「書くこと」は大切だ

書く。
ひたすら書く。
机に向かう
その清潔なまなざし。

手を休める。
思いをめぐらす。
遠くを見つめる
そのやわらかなまなざし



考えている。
苦しんでいる。
迷っている。
もがいている。
でも、まちがいがなく前に進むようにしている。

(某鉛筆会社の広告から)

国語部長(北野小校長)

〈前略〉

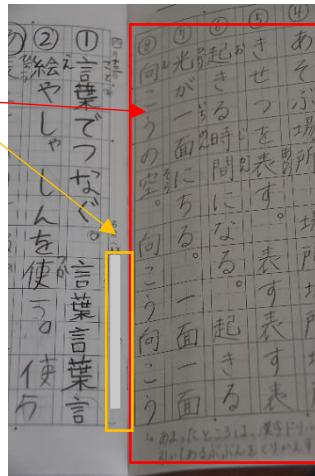
「書くこと」は実にめんどうくさい。しかし、「書くこと」で見えてくること、はつきりしてくること、が多いのも事実である。今まで経験してきたぼんやりしたことが、「書くこと」で明確な筋道となって自分の前に現れるときほど、胸が高鳴るときはない。「書くこと」で、子供たちは自分自身や自分の周りを見つめ直すことができて、確信している。(中略)「書くこと」は、自分に問いかけること、他ならない。

便利なツールは世の中にたくさんある。しかし、自分と向き合い、過去を見つめるという、時間のかかる「書く」という作業こそ、どの子にも必要だ。

「書くこと」は大変だ

右のノートは、□君のノートです。右の赤枠部分(担任の先生のお手本)を見ながら一生懸命書いていました。私が見た時には、名前(黄枠部分)を書いていたのですが、大きさも形もとても整っていました。本人も手応えを感じたようで「校長先生、うまく書けたよ！」と嬉しそうに見せてくれました。時間が経過後、もう一度□君のノートを見に行きました。「今日はノートばっちり？」と聞いたら、□君は自信満々でノートを開きました。が、よく見ると、2行め後半から、変化が…。本人に、「もしかして、2行め後半から疲れちゃった？」と、聞いたら、「なんで分かるの？」と、答えてくれました。(笑)

が、担任の先生のきれいなお手本は、□君に(一瞬ですが、)魔法をかけました。



上記の「書くこと」は、左記のように「お手本を見て、真似して書く」より、もっと時間がかかり、大変な作業「自分の考えや思いを書く」ということについてであると思われる。

授業が始まって6日、まだ何も書かれていない真っ白なノートもあることでしょう。新品ノートに書く一文字めは、多くの子が少し違った思いで書いていることでしょう。この新しい気持ちを大切に「書くこと」を続けられたら、きっと大きな力になることでしょう。

えんぴつ(鉛筆)

* 令和四年一月十七日「かたの」掲載

《作者 長田 弘》

鉛筆はね、人がこぼれを書いたための道具じゃない。人をこぼれに導いてくれる道具なんだ。

鉛筆に、書いて書いて、と言うのは紙。書いてあげると、読んで読んで、と言うのが、言葉。

筆で文字を書くとき、きつ気づく。

文字を書くつて、息をととのえること、心を集めることなんだつて。

自覚「字を書く。文字を書くときは、集中して、真剣に書く。そこから生まれてくるのが、自覚なんだ。

手で書く。大事なことは、手で書く。

すると、ふしぎ、ちゃんと頭の中のノートに書き込まれる。

鉛筆のしんは、芯、くさかんむりに、心と書く。

鉛筆の真ん中にあるのは、ね、字を書く人の心なんだ。

芯と心。似た字だけど、芯は、固くしかりしているのがいい。心は、柔らかくしなやかなのがいい。(後略)

後略部分

書くことわかる、漢字の深さ、おもしろさ。

漢字を覚えると、風景も物も人も、ずいぶん違つ見えてくる。

消しゴムで消せるものより、消せないものが、いっぱいあっていくのが、人生という自分のノート。

文字はしゃべる。

文字を書くというのは、その文字にしゃべらせるということなんだ。

言葉を書き記すつて、私と紙との対話なんだね。対話からはじまるのが言葉なんだ。

文字には、人を立ち止まらせる力がある。

だから、手紙を書くんだ。

言葉を相手に届けたいときは。

文字が手で書くものではなく、いつか失われたもの。墨の香り。紙の匂い。書く人を表す筆の勢い。

みんなへお知らせ

よかったら、

「ちょっと自信あり」のノート
を校長室に自慢しにきてくだ
さい！

◆^{きょうか}教科はなんでもいいよ！

◆「^{じしん}自信あり」の^{りゆう}理由は、
なんでもいいよ！

◆^{やす}お休みの^{しゅくだい}宿題でもいいよ！